

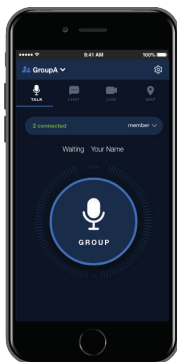


Buddycomを導入して良かったこと

“電話やメッセージアプリではできないリアルタイムな情報連携ができた”

教育機関

文化祭・体育祭



電話と違って、相手が応答しなくても話したいタイミングで通話できること、単方向モードが便利です(電話のように双方向だと大人数がしゃべってしまい、会話がかぶって何がなにか聞き取れないため)。

聞き取れなかったことも、チャット画面でいつでも聞き直すことができる点と、買い出し時の電車内では電話できなかつたり、メッセージだと相手が通知に気づかないといったことがある中、Buddycomだと受信したメッセージを自動読み上げしてくれるため、必ず気づけるといった点が、トランシーバーと比べた時の相違点で、かつそれがメリットだと思います。

また、Buddycomは毎回参加しているチャンネルを変えなくても、複数のグループの会話を同時に聞くことができるため、他部門の状況や、緊急時の会話も確認できるのは強いと思います。





導入前の課題

聖光祭(文化祭)や体育祭では毎年トランシーバーを使って幹部間で情報連携をしていましたが、全員分を用意するのが難しく、壊れやすい、音質が良くない、学校外への買い出し等でつながらないといった課題がありました。また、話すときに必ず片手が塞がって不便でしたので、ハンズフリーで作業したい気持ちがありました。

導入した理由

2020年から、幹部のみ学園内でスマホの使用許可をもらったため、トランシーバーではなく、スマホを使った情報連携がしたいと実行委員長が「IP 無線」で検索したのがきっかけです。導入事例を見て、Buddycom使いやすそう!と思いトライアルを開始したところ、とても使いやすく、音質、通信距離等の問題も解決されたので、導入に至りました。



様々な学校行事で活用できる可能性がBuddycomにはあります

文化祭体育祭はもちろん、吹奏楽部の楽器搬送時のやり取り、ビジネスコンテストの時に司会の人に「時間押してるから急いで!」などのやり取り、宿泊行事で先生が部屋に見回りに来るタイミングを連携したり、学校では毎月何かしらのイベントがあるので、色々なことにBuddycomでの音声コミュニケーションができそうです。

文化祭や体育祭などのイベントにて、部門間のコミュニケーションに活用

文化祭では、緊急時用のグループと、各部門ごとのグループを作成して運用しました。部門の種類は外務部門、企画部門、演出部門、放送部門、会計部門、技術部門、美化部門、装飾部門、食品部門、展示部門、管理部門、幹部部門があり、文化祭当日、雨が降ってしまったり、緊急事態が発生した際、飲食店舗を閉じたり、お客さんをどう誘導するか、企画がなくなった場合の代替案はどうするかなどを、各所にいる各部門の生徒がその場で考えて学校全体で行動する必要がありますので、Buddycomがとても活躍しました。

他にも、メールをしたので見てください、と音声で呼びかけることで気づきにくいメールを見てもらえ、想定していなかった部分でもとても便利でした。



導入担当者からのメッセージ

Buddycomはすべての人がすぐに、簡単に、安心して使え、全世界でDXが推し進められている、今まさに必要とされている最も優れたコミュニケーションツールであると感じています。これからもより多くの人がBuddycomに触れ、そしてその素晴らしさに感動することを楽しみにしています。



 SCIENCE ARTS

株式会社サイエンスアーツ

WEB: www.science-arts.com
Service: www.buddycom.net
お問い合わせ: info@science-arts.com